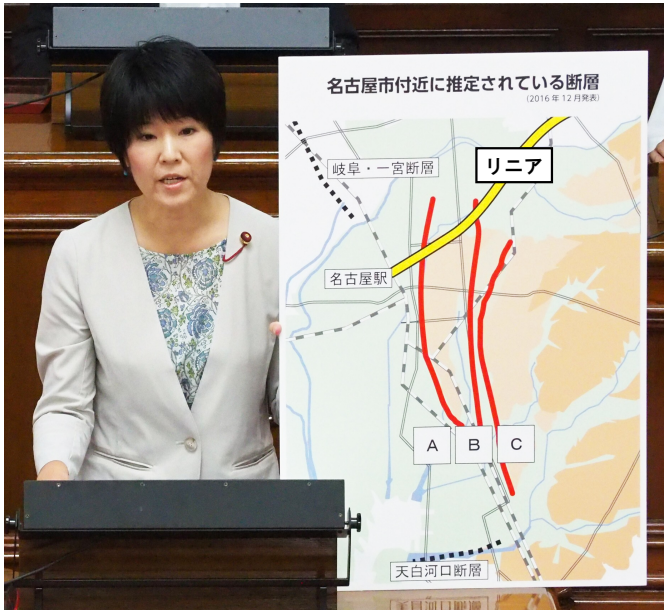


個人質議(9月21日) 青木ともこ議員

都心部の推定断層とリニアルートが交差のおそれ 「未知の断層」解明に、国へ一層強い働きかけを

9月21日の市議会本会議質問で、青木ともこ議員は、2016年12月に名古屋市が発表した推定断層(赤色)と、JR東海が公表しているリニアルート(黄色)が重なっているパネルを示して、当局の認識を質しました。



JR東海「断層は問題ない」、市の認識は？

名古屋市は、推定断層(堀川・尼ヶ坂)の調査結果を「断層の可能性は否定できないので、国に詳細な調査を求める」と発表。しかし、JR東海は「自社調査で問題はない」としており、青木議員は、市の認識との矛盾に見解を求めると、防災危機管理局長は、「JR東海の調査結果は参考になるが、断層の解明には高い専門性が必要であり、まずは国による詳細な調査が必要」と答弁。JR東海の調査結果だけでは判断できないという姿勢を示しました。

「国に強く働きかける」防災危機管理局長

青木議員は、「断層の可能性に解明が急がれる。国に対し一層強く求めていくべきではないか」と迫りました。これに対し、防災危機管理局長は、断層の調査を「国に強く働きかけを行ってまいりたい」と答えました。青木議員は、リニア事業の安全性についても、関係自治体として注視し、必要に応じて防災危機管理の立場から、リニアに意見を述べることを求めました。

保育士の労働実態を調査し 業務量に見合った人員配置を

保護者から慢性的な保育士不足を心配する声

「産休代替の先生がいつまで経っても発表されない」「欠員をカバーするために、園長が給食を作っている」一保護者から慢性的な保育士不足を心配する声があがっています。

青木議員は、「あいち保育労働実態調査プロジェクト」がまとめた保育所調査結果に基づき、保育士の過酷な勤務実態を次のように取り上げました。

保育士の時間外労働は月平均16.6時間。うち13時間が「サービス残業」で、残業40時間以上は1割近く、過労死ラインを超える135時間という回答もあり、「持ち帰り仕事をしている」は約8割にものぼります。

「教員アンケートを研究したい」子ども青少年局長

その上で「公立保育所での超過勤務の改善をめざすなら、まずは保育士の勤務実態を把握することが必要」と指摘し、教育委員会が実施した「教員の勤務実態アンケート」を参考に、客観的に勤務実態を把握したうえで、

業務量に見合った人員配置の見直しなど、改善策を求めました。

子ども青少年局長は、「教員のアンケートを参考にできるか研究したい」と答えました。

保育職場の疲弊は保育の質の低下につながる

青木議員は、国の低すぎる保育士配置基準の抜本的な拡充が必要であり、自治体としてできることに力を尽くすことを重ねて求めました。

名古屋駅バスターミナル 真夏の暑さ対策を求める

共産党市議団の市政アンケートに寄せられた「名古屋駅バスターミナルに冷房設置をお願いします。サウナ状態です」「夏の暑さは耐えがたい！河村市長も一度真夏に歩いてみてほしい！」等の声を受けて、青木議員は、バスターミナルの暑さ対策の具体化を求め、交通局長からは、「ターミナル事業者と協議し、検討する」との返事がありました。

青木議員は、スポットクーラーの設置など、何らかの対策を求めるとともに、河村市長に「ターミナルを歩いて暑さを実感し、暑さ対策への尽力を」と訴えました。